



令和5年1月27日

## 住宅火災による死者が急増中

～いま、備えよう。住まいの防火～

令和5年に入り住宅火災による死者は15人（1月27日9時現在、速報値）発生し、昨年の同時期と比較すると9人増加しています。

特に、住宅火災による死者のうち高齢者（65歳以上）の占める割合が8割と高くなっています。また、昨年と比べ「ストーブ」による死者が増加傾向にあり、電気ストーブにより5人の死者が発生しています。さらに、住宅火災による死者の約半数は住宅用火災警報器等が未設置でした。

住宅火災による被害軽減のため、①火災の早期発見につながる住宅用火災警報器の設置や適切な維持管理（定期的な点検と設置後10年での本体交換）、②住宅用消火器の設置、③ストーブの近くに燃えやすいものを置かない等、日頃から火災に備えましょう。

### 1 令和5年中の住宅火災による死者の発生状況について（別添え1）

- (1) 令和5年1月1日から1月27日までに住宅火災による死者は15人発生し、昨年の同時期と比べ9人増加しています。
- (2) 住宅火災による死者に占める高齢者の割合は8割となっています。高齢者の死者の出火時の状況は、「一人暮らしで出火時本人のみ」が半数を占めています。
- (3) 住宅用火災警報器は全ての住宅に設置が義務付けられていますが、住宅火災による死者の約半数は住宅用火災警報器等が未設置となっています。
- (4) 主な出火原因別の死者数は「ストーブ」が5人、「たばこ」が2人となっています。

令和4年中は「ストーブ」による死者が8人でしたが、令和5年中は既に5人の死者が発生しています。例年、電気ストーブによるものが多い傾向にありますが、令和5年中は全てが電気ストーブによるものとなっています。そのうち4人が「ストーブ」に布団等の「可燃物が接触」することで発生しています。

「たばこ」による死者2人は、たばこの「火源が落下」し、ごみくずや布団類に着火することで発生しています。

## 2 大切な命を住宅火災から守るために

### (1) 住宅用火災警報器の設置及び適切な維持管理（別添え2）

住宅用火災警報器を設置することで火災を早期に発見し、速やかな通報や消火、避難が可能となり、被害を防止、軽減することができます。特に高齢の方は、住宅火災による被害に遭いやすいことから、住宅用火災警報器の設置が有効です。住宅用火災警報器は「全ての居室・台所・階段」に設置し、適切に維持管理をしましょう。

- 定期的に（少なくとも半年に1回）点検をしましょう。点検は、「ボタンを押す」または「付属のひもをひく」ことで実施でき、正常な場合は、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。
- 設置後10年を経過したものは、電子部品の劣化等により火災を感知しなくなるおそれがあるため、機器本体を交換しましょう。
- 全ての部屋の住宅用火災警報器が一斉に鳴動する「連動型」や一酸化炭素なども感知して火災の発生を知らせる「複合型」等、効果的な付加機能の付いた機器を設置するとより安心です。

### (2) 消火器の設置（別添え3）

消火器による初期消火は、火災の被害抑制に効果的です。一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器もありますので、火を使う場所には消火器を備えましょう。

### (3) 出火防止対策（別添え4）

近年の死者が発生した住宅火災の主な出火原因は「たばこ」、「ストーブ」、「こんろ」、「コード」となっています。出火防止のポイントを確認し、出火防止対策をしましょう。

※同時期とは1月1日から1月27日までの間、死者は自損を除く。

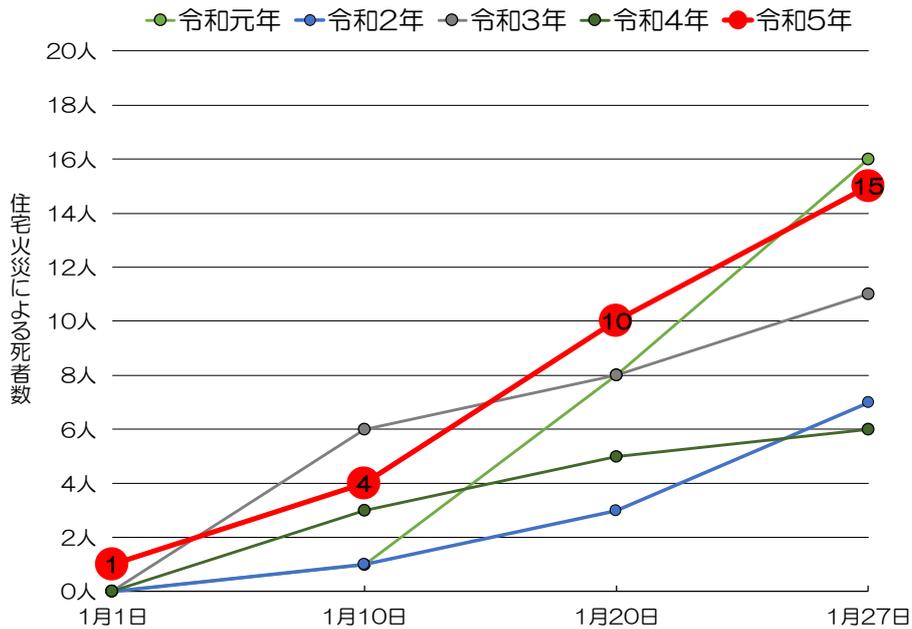
※令和4年及び令和5年（1月27日9時現在）の数値は速報値。

※住宅用火災警報器等とは、住宅用火災警報器及び自動火災報知設備等を含む。

問合せ先

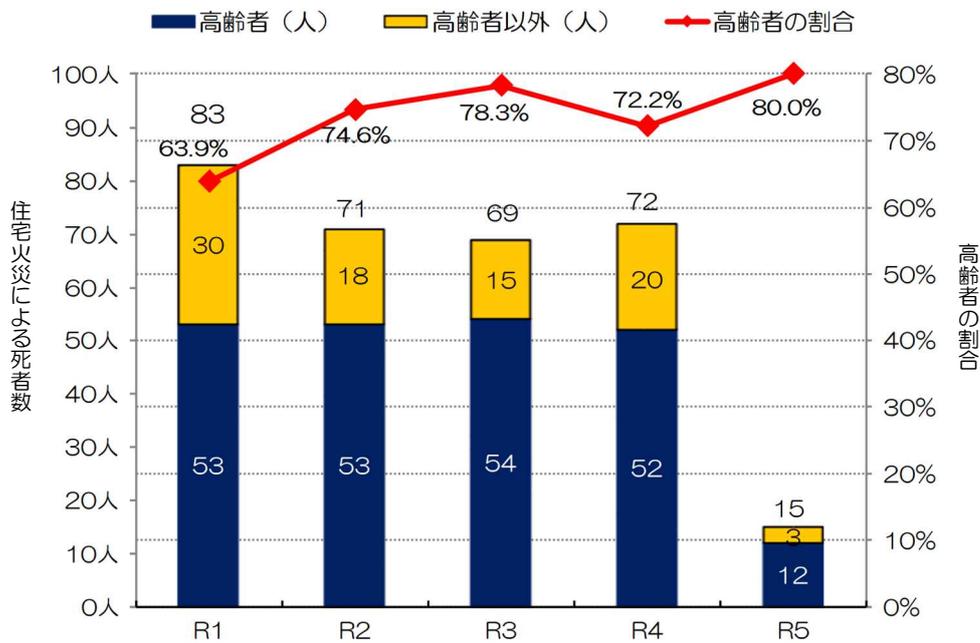
東京消防庁（代）	電話 3212-2111
防災安全課生活安全係	内線 4195
広報課報道係	内線 2345～2350

### 1 過去5年間の住宅火災による死者発生状況の推移（1月1日から1月27日まで）



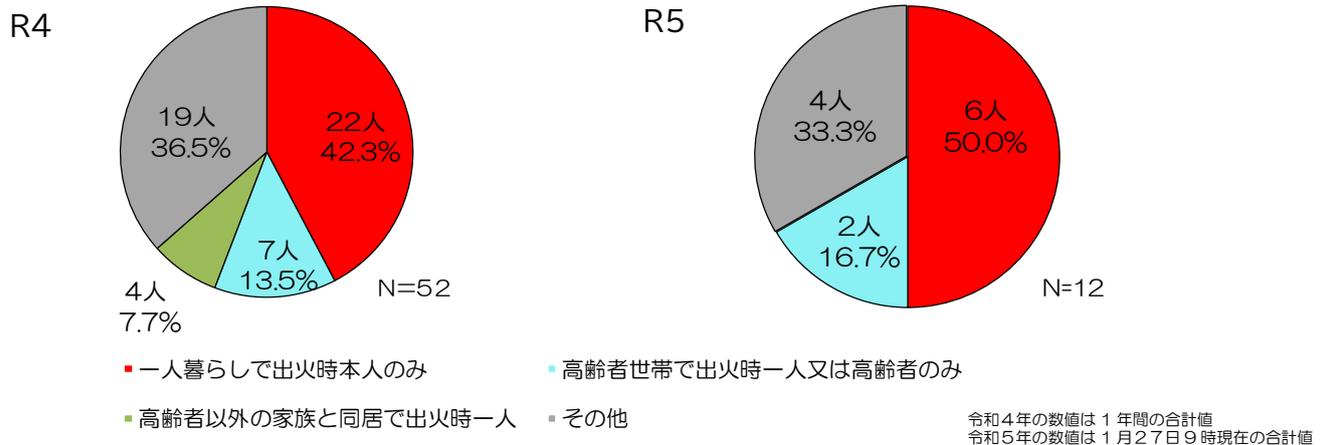
令和5年の数値は1月27日9時現在の合計値

### 2 過去5年間の住宅火災による死者に占める高齢者の割合

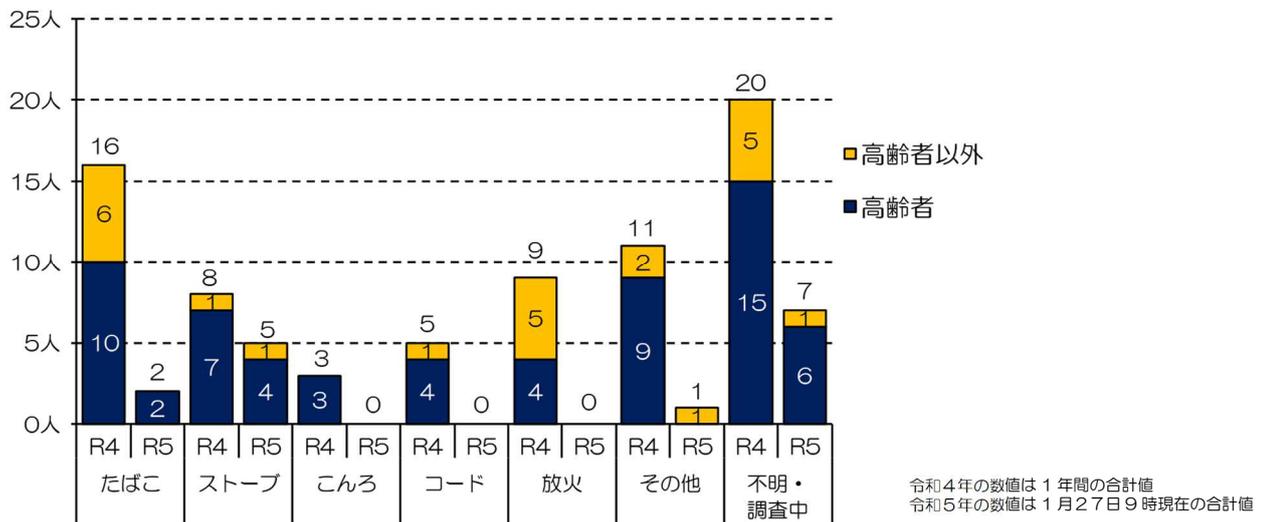


令和元年から令和4年の数値は1年間の合計値  
令和5年の数値は1月27日9時現在の合計値

### 3 令和5年中と令和4年中における高齢者の出火時の状況

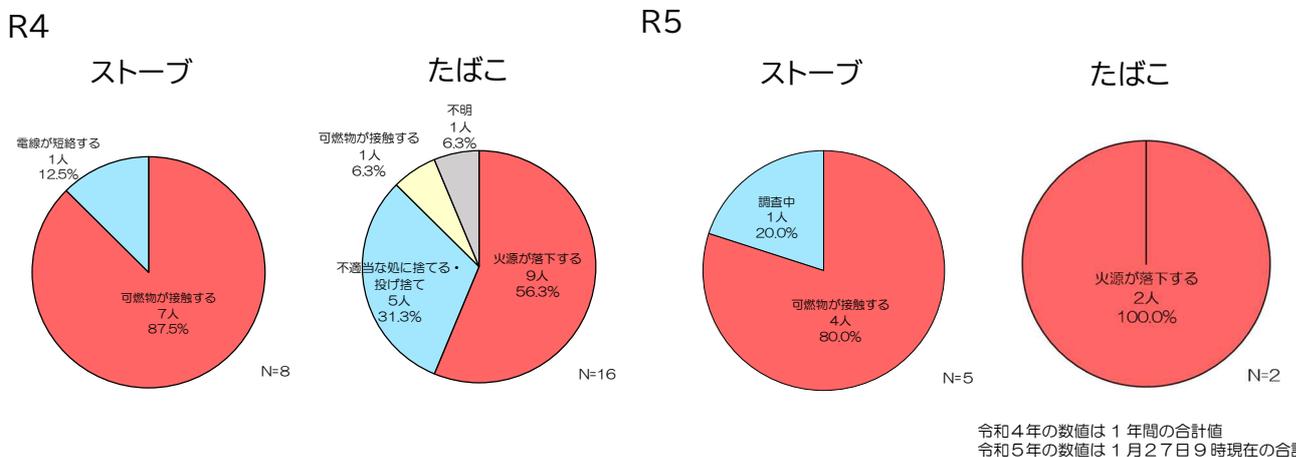


### 4 令和5年中と令和4年中における出火原因別の死者発生状況



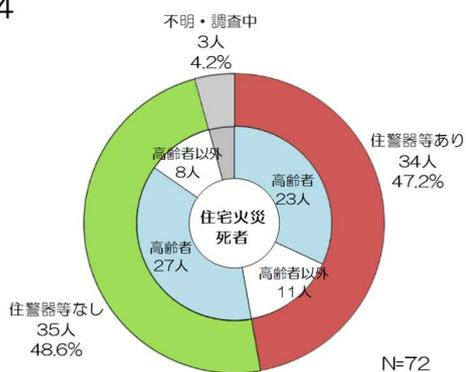
※ストーブによる死者のうち、令和4年は7人が、令和5年は5人が電気ストーブによるもの

### 5 令和5年中と令和4年中における経過別の死者発生状況

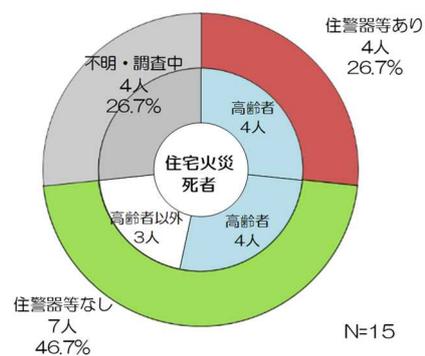


## 6 令和5年中と令和4年中における住宅用火災警報器等の設置状況別の死者発生状況

R4



R5



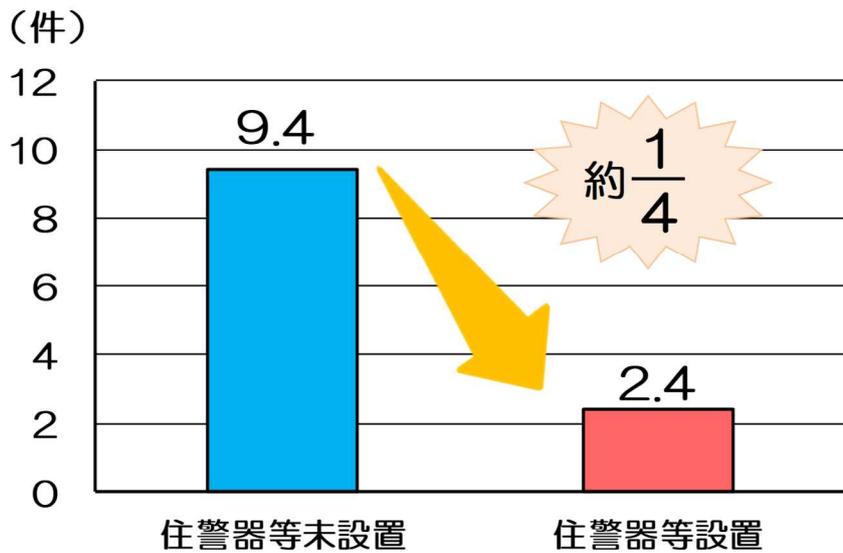
令和4年の数値は1年間の合計値  
令和5年の数値は1月27日9時現在の合計値

- 注1 住宅火災による死者とは、寄宿舍、下宿、共同住宅、専用住宅及び長屋の用に供する建築物又はその部分から出火した火災により死亡した者（自損により死亡した者を除く。）をいう。
- 注2 高齢者とは、65歳以上の者をいう。
- 注3 令和4年及び令和5年（1月27日9時現在）の数値は速報値。
- 注4 令和元年から令和4年の数値は1年間の合計値。

### 1 住宅用火災警報器等の設置効果（令和3年中）

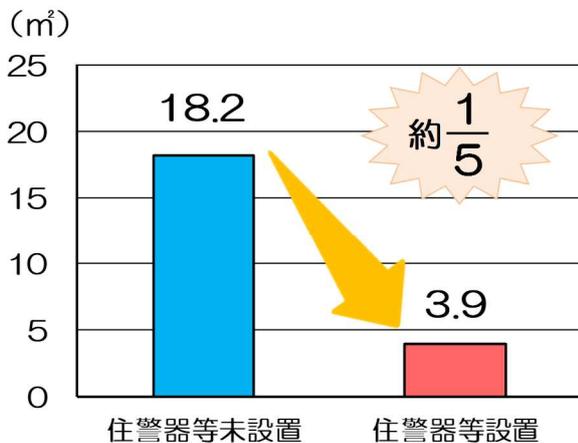
住宅用火災警報器等設置住宅における火災と住宅用火災警報器等未設置住宅における火災について比較してみると、火災100件あたりの死者発生火災件数については、住宅用火災警報器等未設置住宅では9.4件であるのに対し、設置住宅では約1/4の2.4件となっています。火災1件あたりの平均焼損床面積については、住宅用火災警報器等未設置住宅では18.2㎡であるのに対し、設置住宅では約1/5の3.9㎡となっています。火災1件あたりの平均損害額については、住宅用火災警報器等未設置住宅では309万円であるのに対し、設置住宅では約1/4の83万円となっています。

火災100件あたりの死者発生火災件数の比較

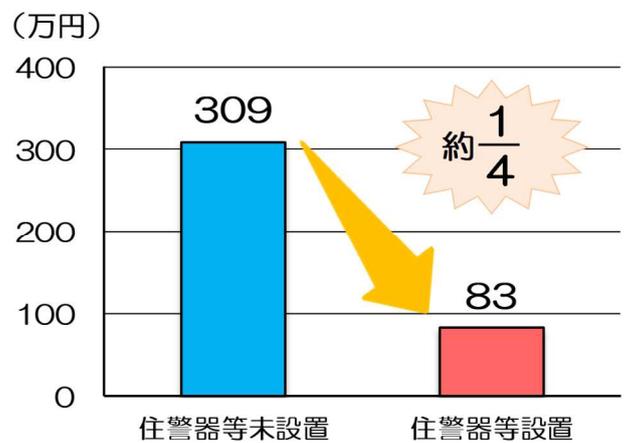


住警器等未設置住宅の火災100件あたりの死者発生火災件数 = (住警器等未設置住宅の死者発生火災件数 / 住警器等未設置住宅の火災件数) × 100  
 住警器等設置住宅の火災100件あたりの死者発生火災件数 = (住警器等設置住宅の死者発生火災件数 / 住警器等設置住宅の火災件数) × 100

火災1件あたりの平均焼損床面積の比較



火災1件あたりの平均損害額の比較



## 2 住宅用火災警報器の奏効事例

### 【被害の軽減につながった事例】

#### ●別の部屋にいた家族が鳴動に気付いた事例

居住者が2階寝室でたばこを吸いながら眠ってしまったため、たばこの火が布団に着火して出火した。1階にいた家族が、2階の住宅用火災警報器の鳴動音に気づいて確認に行くと、室内に白煙が充満していたため、119番通報し、台所で洗面器に水を汲み布団にかけ、初期消火を実施した。

#### ●下階の鳴動に気付いた事例

居住者が自宅の3階にいたところ、2階から住宅用火災警報器の鳴動音が聞こえたので2階へ降りると、断線して床に落下した電気コードから炎が3～5cm立ち上っているのを発見した。すぐに初期消火を実施し119番通報した。

#### ●連動型の住宅用火災警報器の鳴動により、早い発見につながった事例

居住者が2階寝室で電気ストーブのスイッチを入れたまま就寝したため、掛け布団が電気ストーブに接触して火災になった。寝室に設置してある住宅用火災警報器の鳴動音で目が覚めると、同時に1階リビングにいた家族も連動型の住宅用火災警報器が鳴動したため駆けつけることができた。初期消火を実施後、119番通報した。

### 【火災を未然に防いだ事例】

#### ●隣人が気付いた事例

居住者がこんろの火を消したつもりで外出したところ、鍋が空焚き状態となって煙が発生し、住宅用火災警報器が鳴動した。隣人が住宅用火災警報器の鳴動音と煙に気づき、119番通報を行った。到着した消防隊がこんろの火を止め、火災には至らなかった。

#### ●就寝中に鳴動で目が覚めた事例

居住者は飲酒後、鍋をこんろの火にかけたまま寝込んでしまった。発生した煙により住宅用火災警報器が鳴動したため、居住者は鳴動音に気づき目を覚ました。すぐにこんろの火を止めることができたため、火災には至らなかった。119番通報については、隣人が住宅用火災警報器の鳴動音に気づき通報していた。

### 3 住宅用火災警報器の点検方法

本体のボタンを押すか、付属のひもを引いて点検できます。正常な場合、正常を知らせる音声や警報音になります。



### 4 付加機能付き住宅用火災警報器の紹介

効果的な付加機能付き住宅用火災警報器等を設置することでより安心につながります。

#### 連動型住宅用火災警報器

火元で作動した住宅用火災警報器と連動して別の部屋の住宅用火災警報器も鳴動させます。



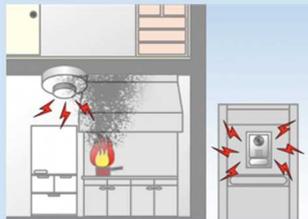
#### 火災・ガス・CO警報器

都市ガスや一酸化炭素(CO)も感知して、あらゆる側面から火災等の発生を知らせる複合型の警報器です。



#### 屋外警報装置

インターホンなどを通じて屋外にも火災の発生を知らせます。近隣住民などの協力が期待できます。



#### 補助警報装置

火災の発生を警報音だけでなく、光や振動等で知らせます。高齢者や耳の不自由な方などに推奨されます。



## 消火器を設置しましょう

# 消火器 ～火を使う場所に備えましょう～

消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的です。  
一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアゾール式消火具もあります。



### 消火器を置く場所

- 誰も見やすく、使いやすい場所に置きましょう。
- 湿気が多い場所や日の当たるところは避けて、転倒しないように置きましょう。



### 初期消火のポイント

- ① 自身に危険が及ばない範囲で消火を行いましょう。危険を感じたら、すぐ避難しまししょう。
- ② 消火剤は燃えているものに向けて噴射しまししょう。
- ③ 消火剤は最後まで使い切りまししょう。

## 住宅火災の主な出火原因と防ぐポイント

### ～たばこ火災を防ぐポイント～

- **寝たばこ**は絶対にしない。
- **飲酒**しながら喫煙し、**うたた寝**をしないようにする。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにする。
- 吸殻を捨てる時は、必ず**水をかけ完全に消火**する。
- 火種を落とさないよう**安全な場所**で喫煙する。
- くわえたばこをしながらの作業等はしないようにする。



### ～ストーブ火災を防ぐポイント～

- **外出時**や**就寝時**は必ず**消す**。
- 周囲に**燃えやすいものを置かない**。
- 布団やカーテン等を**近くに置かない**。
- ストーブの上や近くで**洗濯物を乾かさない**。
- **給油は必ず消してから**行う。



### ～こんろ火災を防ぐポイント～

- 調理中にこんろから**離れない**。
- こんろの周りに**燃えやすいものを置かない**。
- 換気扇や魚グリル等は**定期的に掃除**する。
- こんろの上や奥にあるものを取る時は、**火を消す**。
- **防災品**のエプロンやアームカバーを使用する。
- 火が鍋底からはみ出さないように**調節**する。
- **安全機能付きのこんろ**※を使用する。



※ 現在製造されている家庭用ガスこんろは全て全口に調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、こんろ・グリル消し忘れ消火機能を有する Si センサーこんろです。

### ～電気コード等火災を防ぐポイント～

- 使っていない**プラグ**は**抜いておく**。
- プラグ、コンセントは**定期的に掃除**する。
- 家具などの下敷き、**折れ曲がり**に**注意**する。
- タップは**決められた容量内**で使用する。
- 束ねて使用しない。

